



諏訪湖通信92号

令和8年2月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



「カワウ用忌避バンド」の効果検証 (水産試験場諏訪支場)

「第3回諏訪湖における持続可能な漁業振興を検討するWG」において報告した内容を紹介します。

みなさんは下諏訪町の沖にある消波堤にカワウが列を成して止まっている様子を見たことがあるでしょうか。カワウはワカサギを大量に食べていることがわかっており、休息場所があることは漁業被害の増大に直結します。

そこで、令和7年10～11月、近年開発され、すでに市販されている「カワウ用忌避バンド」による飛来防除の効果検証を行いました。これは幅3cmの赤色の生分解性素材で、鳥が触れると「刺激」を感じ取り嫌がる物質が含まれています。

このバンドを消波堤東端の約45mに写真のように設置し、設置前後の1週間で飛来数を比較したところ、隣に設けた非設置区(約45m)は30%以上増加したのに対し、設置区では95%以上減少し、効果を確認できました。さらに、この効果は1か月以上継続していました。



(忌避バンド設置後)

今後はカワウが忌避バンドの「刺激」を嫌ったのか、単に物理的な障害として避けただけなのか検証してみたいと考えています。

諏訪湖のガンカモ類生息個体数調査 (諏訪地域振興局林務課)

諏訪湖とその周辺河川に生息する水鳥の保護管理や農業水産業被害対策の基礎資料とするため、1月14日水曜日にガンカモ類の生息個体数調査を実施しました。

この調査は毎年度初夏・秋・冬の3回実施しており、平成5(1993)年度にスタートして本年度33年目を迎えました。毎年度冬の調査は環境省の呼びかけで全国一斉に実施されるガンカモ類の生息調査を兼ねて実施しています。早朝から昼前にかけて、鳥獣保護監視員・諏訪市及び諏訪地域振興局林務課職員が4班に分かれて調査を行いました。その結果約25種類が確認され、カモ類ではヒドリガモ・ホシハジロ・カルガモ、カモ類以外ではカムリカイツブリ・オオバン・カワウの個体数が多く確認されました。コハクチョウは4羽確認されました。



(調査の様子)

自然環境の変化を捉えるためには継続した調査が大切なことから、来年度も関係する方々の御協力をいただきながら実施してまいります。

水辺整備④ Gゾーン(下諏訪町) 水上スポーツを楽しむ湖畔

訪湖の水辺の整備Gゾーンは、水上スポーツを楽しむ湖畔づくりを目指しています。

令和2年5月に完成供用開始された下諏訪町新艇庫AQUA(アクア)が湖畔の健康スポーツゾーンの拠点としての役割を担っています。また、防災拠点として災害時には船を使って物資や人を輸送する拠点となる機能を備えています。



位置図

愛称AQUA未来は災害の無い未来になって欲しいとの思いが込められています。AQUA(アクア)は水という意味があります。



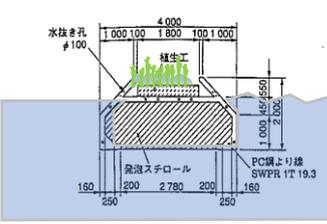
新漕艇庫の全景

- 施設の概要
- ・塔屋 屋上;展望スペース
2階;災害対策室、女子更衣室
1階;防災倉庫、トイレ
男子更衣室
- ・艇庫 収容数 135艇
- ・外構 棧橋 3基
展望が楽しめる足湯
足湯は、サイクリングや散策されている方に喜ばれています。



防災計画

浮消波堤の整備により良好な諏訪湖レガッタや 諏訪湖トライアスロンの運営に寄与



浮消波堤断面図



内側は沖合に比べ静か

やまびこ国体を記念した始まった諏訪湖レガッタは下諏訪町ポートコースで開催されます。このコースに並行に設置された浮き消波堤は、幅は4m、延長はL=1,200mもあり、PC構造ですが発砲スチロールを内部に組み込み浮力を期待しています。一つのブロック 幅4m、長さ15mが7基をPC鋼線で緊張し複数のワイヤーで湖底に固定しています。

この消波堤により、レガッタの大会に風による影響が少なくなり、良好な運営に繋がっています。

令和4年6月から始まった諏訪湖トライアスロンの競泳コースにも採用されています。



下諏訪町ポートコースを力泳する参加者

令和7年6月29日(日)に第3回目の諏訪湖トライアスロンが開催され、735人がエントリーされました。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901